

## 私のすすめるこの1冊

武田 一郎 (社会科学科 教授)

### 『地球はもう温暖化していない—科学と政治の大転換へ—』

深井有 (著)

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル) は CO<sub>2</sub> 排出削減を訴え、地球温暖化を防ぐために尽力する“正義”の組織であるとお考えの方もおられると思います。しかし、2009年にクライメートゲート事件という興味深い出来事がありました。これは IPCC の中心人物たちのメールが流出し、データ操作や批判封じなどの行為が明るみになった事件です。海外では大きく報道されたそうですが、なぜか日本ではほとんど話題になりませんでした。

確かに CO<sub>2</sub> 濃度と地球の気温との間には高い相関があり、南極の氷の分析などから CO<sub>2</sub> 濃度は過去に何度も訪れた氷期に低く、間氷期に高いことも解っています。しかし、過去の間氷期は 10 万年よりも前のことで、旧人や原人の時代でした。当時の人口は微々たるもので、化石燃料の消費もありませんでした。なぜ CO<sub>2</sub> 濃度が高かったのでしょうか。

炭酸飲料を温めると CO<sub>2</sub> が出てくることと同じで、気温が上がると海水温も上昇し、海水に溶けていた CO<sub>2</sub> が大気に放出されます。したがって平均気温と CO<sub>2</sub> 濃度の間に相関があるのは当然です。つまり CO<sub>2</sub> 濃度が増えたから気温が高くなったのではなく、逆に温暖化が CO<sub>2</sub> 濃度の上昇をもたらしたとも考えられるわけです。

本書はまずクライメートゲート事件の顛末と IPCC という組織のとんでもない実態を紹介するとともに、気温変化の方が CO<sub>2</sub> 濃度の変化に先行するというデータを示しています。また地球の気温は一義的には太陽活動に関係すること、そして太陽光を

弱める働きをする雲の生成に宇宙線が寄与していることを説明しています。

本書は次に温暖化防止のための気候変動枠組条約締約国会議 (COP: Conference of the Parties) を取り上げ、この会議は地球温暖化を防ぐというよりは政治的争いの場であることを指摘しています。COP3 では京都議定書が採択されましたが、この議定書は実質的に日本のみが大幅な削減を課される茶番劇だったようです。日本はそのために莫大な負担を続けており、支出総額はすでに数兆円に達しているとのことです。ところが、日本の教科書には京都議定書がさも“善”であるかのように書かれています。

ところで我々がよく目にする平均気温や海水温度の上昇を示すグラフのスタート時期は大体が 1800 年代半ば過ぎになっています。この頃は「ダルトン極小期」(1790 頃～1830 頃) と呼ばれる太陽黒点数の少なかった (= 太陽活動が弱かった) 期間が終わった直後にあたり、まだ気温の低い時でした。したがって、それ以後は気温がどんどん上昇するのは当たり前だったのです。確かに、この時は世界各地で気温測定が始まった時期であることに違いはないのですが、なぜか温暖化 CO<sub>2</sub> 犯人説を唱える向きはグラフのスタート時期については触れません。本書を読めばこのこともよく解ります。

かつて、ダイオキシン、環境ホルモン、割りばしなどの環境問題がメディアや政治家や行政、企業、研究者、教育現場など至る所で賑わいましたが、今ではほとんど聞かれなくなりました。地球温暖化 CO<sub>2</sub> 主因説もいずれ忘れ去られるかもしれません。

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

### 第 13 回を実施しました

10月25日(木)、附属図書館1階のリフレッシュラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。第13回は、理学科の藤浪理恵子先生による「色々なところで生きることを決めた植物たち」をテーマに、お話しがありました。定員30名を越える参加があり、多くの学生や教職員で賑わいました。



<第13回の様子>

### 第 14 回のお知らせ

【日時】12月13日(木) 12:10~12:40

【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ

【講師】原田 信一(産業技術科教授)【テーマ】ものづくり学習に活かせる! おもしろエネルギー実験

主催:「現代的ニースを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

おにぎり2個  
&お茶付き!  
先着30名

### わくわく kyo2 ライブラリー2018 読書キャンペーン

図書館で借りた本の紹介をして、そったくんグッズや図書カードをもらっちゃおう!

実施期間:2018年10月1日(月)~2019年2月1日(金)

借りた本のポップ(A6サイズ、イラストやキャッチコピーなど)や、紹介文(400字~600字程度)を提出してください。全作品の中から優秀なものには館長賞(図書カード)が授与されます。選考からもれた方には、参加賞を進呈します。

【対象者】本学学生(学部学生、大学院生、科目等履修生、研究生等)詳細は、館内ポスターや附属図書館HPなど各種お知らせをご覧ください。



読みたい本に  
投票しよう!  
(1日1ポイントまで)

### ブックハンティングを実施しました!

8月21日(火)および10月31日(水)にブックハンティングを実施しました。合計7人の学生に参加していただき、74冊の本を選んでいただきました。実際に書店を歩き回ること、「あまり気にしたことが無かったような種類の本も見つけることができた」、「たくさん好きな本を選べた」などの感想をいただき、「楽しかった!」、「次回も参加したい!」というコメントもいただきました。

来年度も実施予定ですので、学生のみなさんは是非参加して、図書館に入れて欲しい本を選びつつ、新しい発見もできる機会を体験してください!

### リクエストと投票で話題の本を読もう!

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています!

- リクエストは随時受け付けています
  - ・学習研究目的のものは原則として購入します。
  - ・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受け付けた分を15日~月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。
- ※結果によっては購入できないこともあります。

12月の投票期間は

**12月12日(水)~12月27日(木)**です。

※図書館1階渡り廊下・北館2階研修セミナー室前に展示しています。



### 学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

どんどん利用してください！

### 第31回 うたとおはなしの会

【日時】12月15日(土)

10:30~11:30

【場所】附属図書館北館2階  
研修セミナー室1

【定員】130名

(事前申込要、先着順)

寒い日でも心がほかほかになるようなうたやお話をたくさん！  
大人気の人形劇は「こびととくつや」を上演予定です。



### 企画展示室(北館1階) <開催中>

#### ◆第23回教科書展

「平和教育と教科書～教科書で戦争と平和を考える～」

【会期】11月15日(木)～12月27日(木)

★11月24日(土)に教科書展開催記念講演会を開催しました。

(テーマ)次世代につなぐ平和教育：平和で民主的な社会の形成



#### ◆KYOKYO SDGs-私達ができること(井谷恵子先生)



【会期】11月21日(水)～  
12月27日(木)

### 幼児教育科主催 えほんのもり

### 児童書コーナー (南館1階)

学生による絵本のよみきかせ

★12月3日(月)  
14:30～14:45  
『ゆき』他

★12月17日(月)  
14:30～14:45  
『14ひきの  
さむいふゆ』他



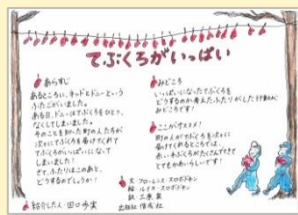
↑  
学生作のチラシ

#### 今月の絵本カード(学生作)

『てぶくろがいっぱい』

作：フローレンス・スロボドキン  
絵：ルイス・スロボドキン 訳：三原 泉  
出版社：偕成社

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



#### <お知らせ>

◆第7回 京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー  
(本学は参加大学です。)京都の大学ミュージアムをまわって「知」と「美」と「素敵な景品」を手に入れよう！

【期間】9月15日(土)～12月8日(土)

◆企画展「掛図からみる京都師範の歴史教育」  
11月5日(月)～12月21日(金)

【開館曜日】月・水・金・日曜日および11月17日(土)

【開館時間】13:30～17:00

【会場】教育資料館 まなびの森ミュージアム

【入館料】無料

### 教育資料館 まなびの森ミュージアム

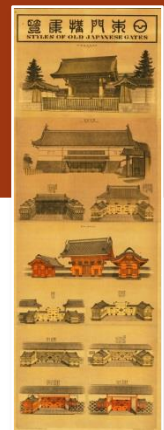
今月の逸品(12・1月予定)

「日本門構集覧

(STYLES OF OLD JAPANESE GATE)」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。

教育資料館まなびの森ミュージアム  
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>



## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **榊原 禎宏**(教育学科 教授)

### 教員の職能開発にとってのリフレクション論の意味 — 1990年以降の小学校教員を対象にした文献の分析を通じて —

榊原 禎宏・嵯峨根 早紀  
京都教育大学紀要. 2018, No. 133, pp. 131-147.

教員を目指すみなさんは、教員として成長していくことを、どんなふうイメージしているでしょうか。授業で扱う内容や方法に精通する、児童・生徒や保護者との関わり方を考える、学校管理職や同僚と協力して仕事に臨むために学校の仕組みを知る、と学ぶべきことは多方面に及びますが、それらはいずれも、行為する自分を離れてはありえません。

いかに授業の進め方について本を読み、他者の授業を見学しても、最終的に実践するのは各人であり、それは個々の人格的要素、たとえば認知上の癖、感情の惹起の仕方、美的好みなどによって、行為のありようは異なって、誰一人として同じように振る舞うことはできないのです。こうした、マニュアル化できない部分が相当あるという教職の特性を踏まえること、その上で、教員として長く健康的に働き続けるためには、行為する自分を相対化して、第三者的に自分を見つめる能力を持つことが重要と、この四半世紀以上、教員の振り返りやリフレクションが注目されてきました。

ところが、この言葉が新鮮だったためか、同じようにリフレクションと述べていても、その指すものの、具体的な内容はあまりに広範で、論者の中で最大公約数を定めることさえ、ままなりません。それどころか、ときに矛盾する用例もあるほどです。これでは、鍵概念としての意義が失われてしまう、こうした問題設定から、本論文では小学校教員の力量形成の観点から著されたリフレクションの言説を、主体、対象、方法に即して分類し、その結果、この言葉の使われ方が64種類にも渡ることを明らかにしました。またその背景として、この言葉の提唱者であるD. Schönの論理が必ずしも整合的ではないということも指摘しています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

#### 開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2018年12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

12/1 推薦入試  
12/8 推薦入試  
12/22-1/6 冬季休業

2019年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1/7 授業再開  
1/19-1/20 センター試験  
1/26-27 センター追試験

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード→)

<http://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.219(2018年12月号)

発行日:平成30年12月3日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人  
**京都教育大学**  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION